

耐震性、利便性が向上

市庁舎リニューアル

市が昨年7月から進めていた庁舎改修工事が8月末で終了します。この工事により、耐震性のほか、エレベーターの新設などで利便性が向上。“利用しやすい市役所”として、リニューアルしました。



耐震化が終了した本庁舎（8月7日撮影）

大地震への備え万全に

市役所本庁舎は昭和32年に完成して以来、50年以上が経過。耐震診断の結果、補強が必要な建物とされました。このため、昨年7月から耐震補強を中心とした庁舎改修工事を実施。庁舎の外壁に耐震フレームを取り付け、窓の一部を閉鎖しコンクリート壁を増設するなど、耐震強度を向上させました。これにより、設計上、震度6強の大地震にも耐えられる構造になりました。

3か所にエレベーター

耐震補強工事と併せ、市役所を利用される皆さんの利便性向上のため、本庁舎、東庁舎、西庁舎の計3か所にエレベーターを新設。バリアフリー化を進め、どなたでも庁舎内をスムーズに移動できます。



ベビーカーでの移動もしやすく

窓口カウンターを新調

本庁舎1、2階は床を張り替え、窓口カウンターを新調。1階市民・国保課には車いす



明るくなった窓口で手続きもしやすく

照明をLEDに

このほか、新たに自家発電設備を整備。停電時に庁舎内の必要最低限の電力供給が可能になりました。また、照明の大部分をLEDに変更。消費電力を抑えるなど、節電にも努めています。

市功労者など表彰

市は8月1日、長年にわたって黒谷和紙の振興・発展に尽力された福田清さんなど市政の発展に大きく貢献した11人・7団体を表彰しました。



被表彰者を代表して挨拶する福田さん

功労者

を表彰しました。善行者は、善意の奉仕や地道な地域づくりを続けている住民・団体に贈るもの。登下校する児童の見守り活動に長年取り組んでいる市民を表彰しました。（敬称略、順不同）。

福田清（黒谷町） 今年5月まで27年の長きにわたり、黒谷和紙振興会の会長、黒谷和紙協同組合の理事長として、組織の法人化や販売ルートの開拓など、指導的な立場で黒谷和紙の振興に尽力。さらに、

功労者1人のほか、公益のため貴重な浄財や物品を寄付いただいた篤志者5人・4団体、スポーツなど各分野で顕著な功績のあった分野別功労者4人・3団体、善行者1人

この間、和紙の生産技術の習得を目指す人材を広く市内外から受け入れるなど、後継者の育成に積極的取り組み、綾部市の伝統産業・黒谷和紙の発展に寄与。

篤志者

米谷博夫（田町）▽齋宮熙子（京都市）▽四方祥樹（東京都）▽出口紅（亀岡市）▽渡邊照昭（滋賀県）▽綾部ライオンズクラブ（西町一丁目）▽大相撲綾部場所実行委員会（並松町）▽わかさ生活（京都市）▽藤山テレビ共聴組合（並松町）。

分野別功績者

木下和浩（味方町）▽佐々木優治（高倉町）▽十倉照子（七百石町）▽樋口優人（上延町）▽綾部ライオンズクラブ（西町一丁目）▽綾部高等学校男子ソフトボール部（岡町）▽綾部高等学校PTA（同）。

善行者

四方安夫（里町）。

善聞語録



54

未体験領域

前職（銀行員）時代は国内の度重なる転勤はもとより、米国に住んだり、海外出張にも頻繁に出掛けたりした。そして金融という業務を通じて、内外のいろいろなビジネスの世界で知己を得る機会にも恵まれた。現職に就いてからは行政や政治の世界に足を踏み入れ、未知の世界で新たな経験を積みながらの5年間であった。我ながら慌ただしくも充実した半生だったと振り返りつつ、更に今、新たな「未体験領域」に臨もうとしていることに気付く。

それは還暦が近づくにつ

れ、「老い」への意識が次第にリアリティを増してくることである。幸いなことに目下、特段の思いはないものの、視力や記憶力の衰えは如何ともしがたい。80歳を超えて尚、酒やゴルフに興じておられる大兄に接すると、我が身を顧みるに果たしていつまで酒が呑めるのか、いくつまでゴルフが出来るのか、といった浮世の浅き夢に煩わされるのも、まだまだ彼方（かなた）と思っていた対岸が否応なく近づいていることを自覚するせいか。

「老い」は誰もが避けられない宿命ならば、徒に抗うことなく現実を受けとめ、正面から向き合う覚悟が肝要となる。これまで克服してきた領域とは趣の異なる「未体験ゾーン」とは言葉、怯えることなく先人の智慧も借りながら、むしろ楽しむくらいの気持ちでこの「未体験領域」に挑んでいきたいものである。

山崎善也（綾部市長）